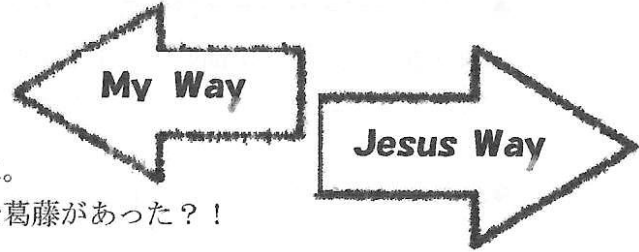


<イエスに従うもの>

マルコ8：34～38

【1954年 洞爺丸台風】



イエスさまは、十字架への道を明らかにされた。

十字架はイエスさまにとって大きな葛藤があった？！

「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。

悲しみもだえながら、十字架にかかる以外の道を開いてくださいと祈られた。

「しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。」

イエスさまをわきに連れていき、いさめ始めたペテロ

ペテロには、自分の思い描いていたメシヤのイメージがあった。

それはイエスさまが、語られたものとは全く違った。

- ◆自分が描く「イエスさまとは」を断定的に決めつけてしまっていないだろうか。
分かったような気になって、実は自分の勝手な思い込みに過ぎないことに気づかず、
神が示された真理だと勘違いしてしまっていないか。

自分の考えに捕われ、思い込むと、それ以外は受け付けられない。

- ◆自分はわかっている者だという自覚があるから、神のことばによって、
常に改革される。

「下がれサタン。あなたは神の事を思わないで、人のことを思っている」ὀπίσω ギリシャ語 英訳 behind me 「私の後ろに廻れ」の意味
ペテロがいるべき所を示された。

それはイエスさまの後ろ。後ろに立ってついて行く。本来の姿。私たちの姿。

それから、イエスは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。

【34節】

- ◆自分を脇におかなければ、自分の主義主張を貫こうとするのを辞めなければ、
従順にイエスさまの後をついて行くことは出来ない。

自分を捨てるとは・・・？

自分の意思をもって主を愛すること。

その実態は、自分が犠牲を払うことでもある。

◆自分にはできない弱さがあることを認めながら、なおイエスに従い続けたいと願う者の内に聖霊が働いて、十字架を負ってイエスさまの後をついて行く事を助けてくださる。 12弟子達がそうだった！

◆自分にとって損か、得かの自己中心的な価値基準を誰もが持っている。それを持ったままでは、イエスさまの後をついて行くことはできない。イエスさまを愛するか、世を愛するか、両者は相容れないものだから。

いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。人は、たとえ全世界を得ても、いのちを損じたら、何の得がありません。自分のいのちを買い戻すために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。【35～37節】

<小さな死を体験する>

それは・・・言い返したいときに言い返さない

愛されること待つより、自分から愛する

慰められることを求めるより、慰めを与える